

保育の質の向上

— 保育環境評価スケールを手掛かりに —
京都市保育園連盟保育研究所研修会

1

2010年12月8日（水） 午後2時～4時
こどもみらい館 4階 第一研修室

講師 埋橋玲子（同志社女子大学）

保育環境評価スケール 入門

2



テルマ・ハームス博士

テキスト 『保育環境評価スケール①幼児版』
『保育環境評価スケール②乳児版』

テルマ・ハームス他著 埋橋玲子訳、法律文化社

内容

3

- 基本的な考え方
- 「評価」について

- 全体の構成

**保育の質を段階的に考える
観点を持って保育を見る**

- 基本的な採点方法
- 観察に当たっての注意事項

スケールの背景となる考え方

4

- 簡単な歴史

1970年代後半に幼児版が考案される

すべての子どもに共通するニーズに注目
どのような保育プログラムであっても使える

健康と安全

社会的・
情緒的安定

知的発達

1990年 乳児版

1996年 学童保育版

1998年 幼児版改訂

2003年 乳児版改訂

2004年 幼児版・乳児版 邦訳発行

3つの基本的なニーズ

5

- **健康と安全**

健康的な習慣を身につけさせる
子どもを病気とけがから守る

生命の保持

- **社会的・情緒的安定**

自分自身と他者の価値と権利を尊重する
困難に打ち勝てる希望をもつ心、粘り強さを養う

情緒の安定

- **知的発達**

知的・言語的・本質的技能を発達させる
のちの学校生活と職業生活を乗り切れる知的能力と表現能力

発達の援助

保育所保育指針

6

● 第4章ー2 保育の内容等の自己評価

(1) 保育士等の自己評価

ア 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、**保育実践**を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

イ ……次の事項に留意……

(ア) 子どもの**活動内容やその結果**だけでなく、**子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程**などに十分配慮すること。

(イ) 自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること

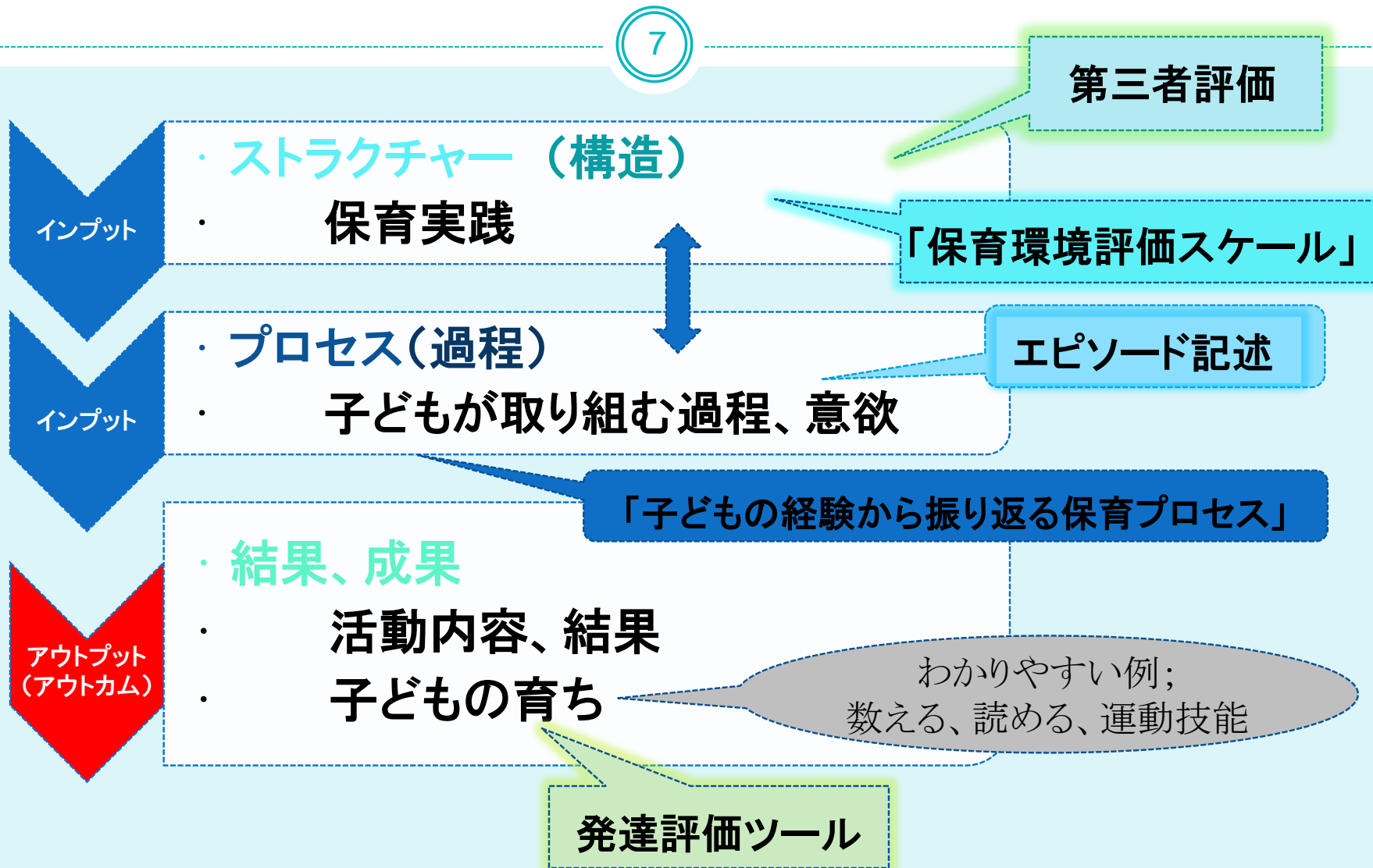
ストラクチャー
(インプット)

アウトカム(アウトプット)

プロセス
(インプット)

評価の構造

7



保育環境評価スケールが測定する「質」

8

保育室の広さなど保育の「**数値による構造**」ではなく
子どもが何を体験しているかに注目

他の子どもやおとなとのやりとり
空間がどのように構成されているか
活動内容
食事、排泄、休息はどのように
個人的な日常のケアはどのように

保育環境評価スケールのコンセプト

9

- 目に見えるもの(観察できること)をとおして
おもちゃ
教材
設備
交わされることば
保育者のしぐさ
- 目に見えないもの(子どもの経験) = 質を評価する

スケールの特徴

10

- 「質」を数字で表す
 - ⇒ データ蓄積
 - ⇒ わかりやすさ
 - 例. スター・システム ★★☆☆☆
(ミシュラン・システム)
- 統計的な考え方
 - よくある質問; たった3時間の観察で保育というものがわかるのか?
 - ↓
 - 3時間で観察されたことは「**サンプル**」
 - 例 プールの水質検査
健康診断の血液検査

保育の質を 段階的に考える

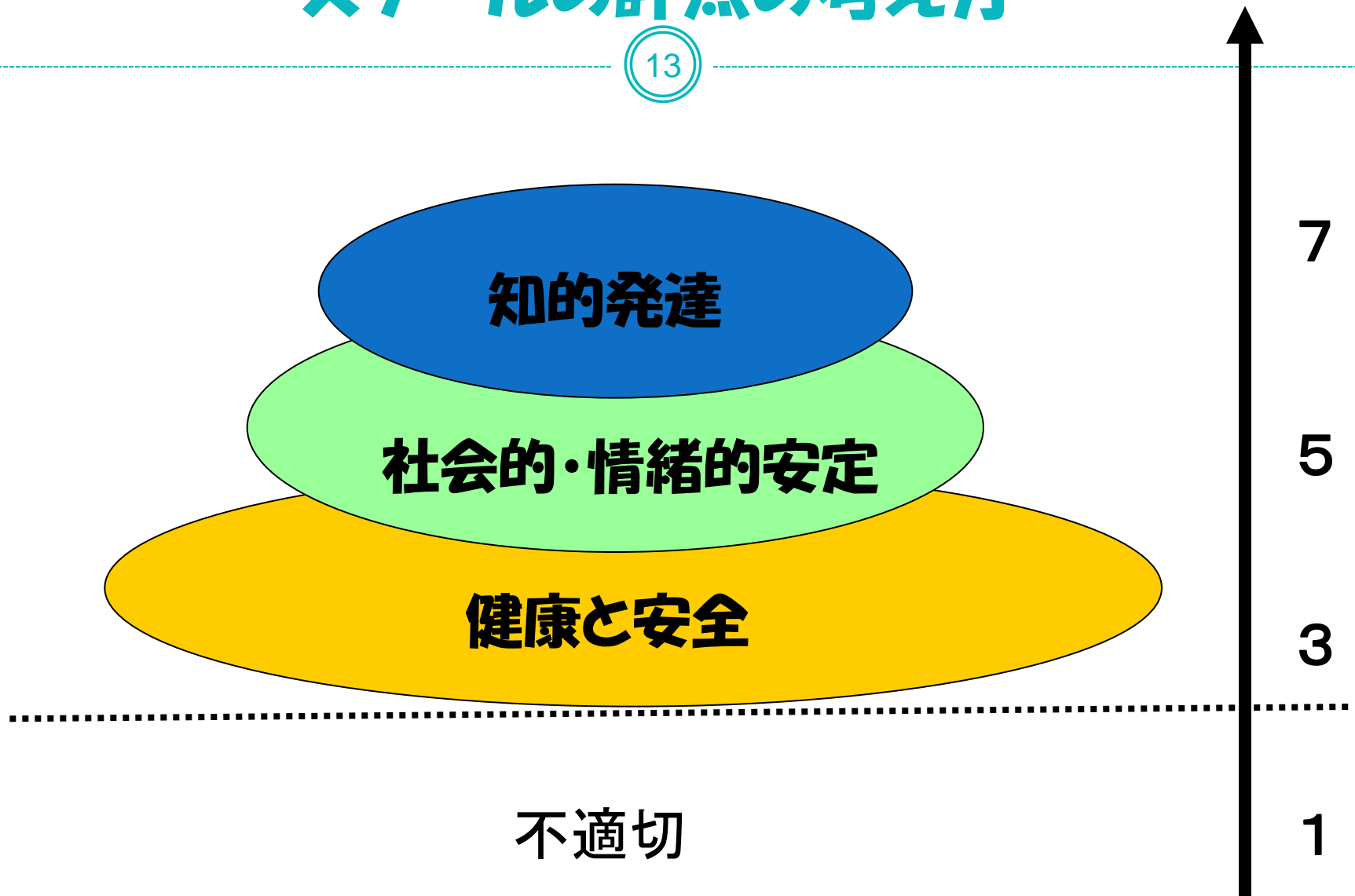
スケールの評点の意味

12

- **1 不適切**; 全体スコアが1のプログラムは例外的であり、質が低い。子どもの健康と安全が脅かされている。学びの機会がほとんどない。
- **3 最低限**; 基本的な安全と保健衛生が提供されるが、学びと発達の機会はかなり限られる。
- **5 よい**; このレベルでは発達にふさわしい経験が子どもに与えられ、学びの機会が多い。
- **7 とてもよい**; 「よい」に加え、子どもの**自立**を促すものであり、**学び**はより個別的になり、スタッフ、子ども、保護者の間にあたたく、育む関係がある。

スケールの評点の考え方

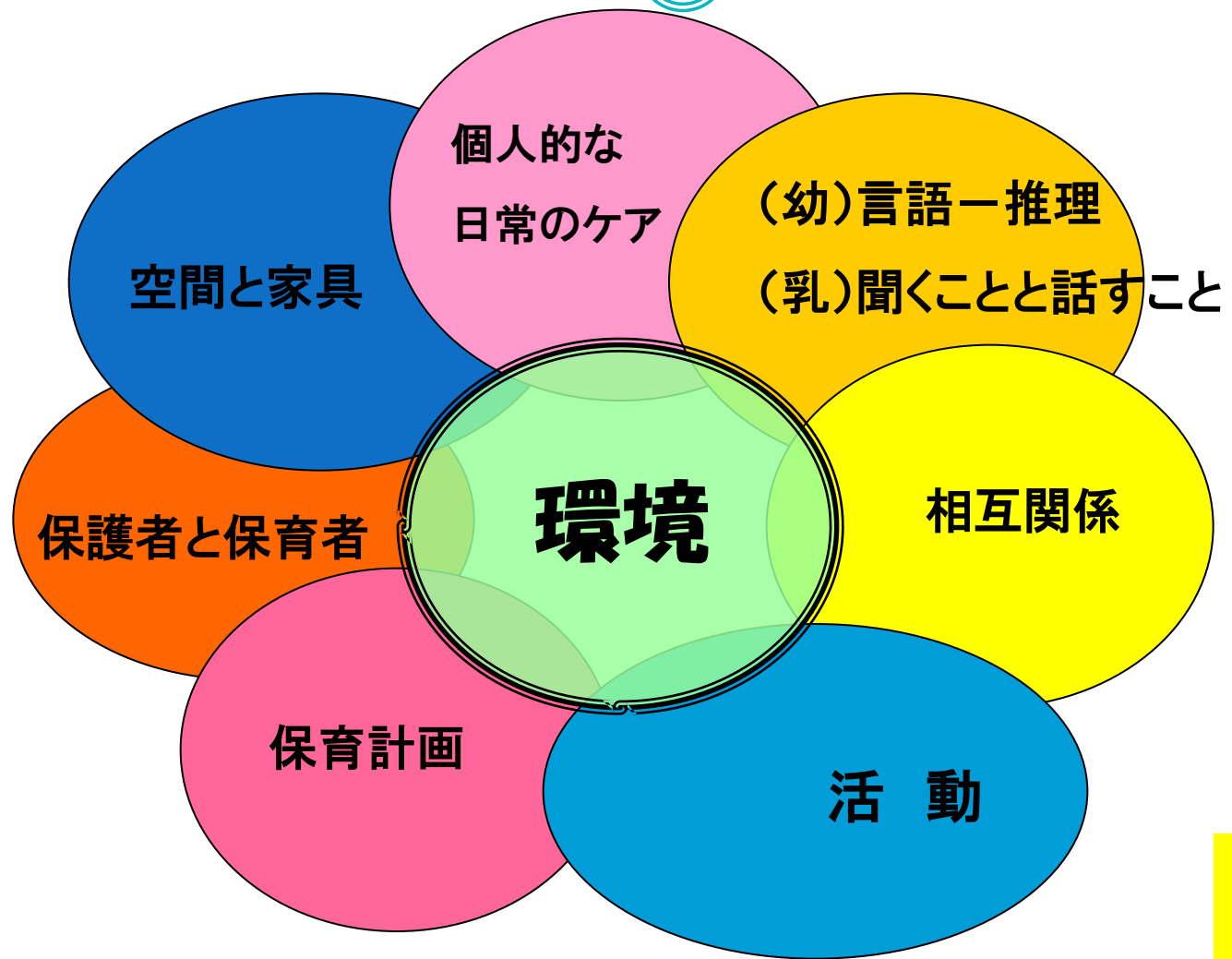
13



観点を持って保育を見る

全体の構成: 7の大項目 (幼・乳目次 p7)

15



プロフィール
→

幼児版 p95
乳児版 P87

幼児版 項目9・登園／降園 (p24)

16

- 1.1 子どもは登園時にしばしば無視される。 はい いいえ
- 1.2 降園の段取りがうまくできていない。 はい いいえ
- 1.3 保護者が子どもと一緒に保育室に入ることが許されていない。 はい いいえ
- 3.1 ほとんどの子どもが温かく迎えらるる。 はい いいえ
- 3.2 降園の段取りがうまくしてある。 はい いいえ
- 3.3 保護者が子どもと一緒に保育室に入れる。 はい いいえ
- 5.1 子どもが一人ひとり迎えらるる。 はい いいえ
- 5.2 気持ちのよい降園。 はい いいえ
- 5.3 保護者は保育者に温かく迎えらるる。 はい いいえ
- 7.1 子どもが登園したとき、必要があれば活動に入れるよう手助けされる。 はい いいえ
- 7.2 子どもは帰る間際まで遊びに打ち込んでいる。 はい いいえ
- 7.3 保護者が登園・降園時に保育者と情報交換をする。 はい いいえ

基本的な手続き

17

- 保育環境評価スケール〈幼児版〉の手引き
テキストp2～
〈乳児版〉も同ページ
- 2つの考え
評価点を得る → 途中までで終るときも
保育についての情報を得る → 最後まで

観察・評価のポイント

18

- 観察には最低3時間
- 保育にはかかわらない(自然な表情)
- 終了後の質問には20分程度
- 観察時間内にすべての項目を終了
- 観察された、あるいは報告された**現在の状況に基づいて**決める
- 必ず「1」の項目からスタート

評価利用の3つのレベル

19

- 自己評価の初歩
自らの気づき
- 相互評価 ★組織内での利用(自己評価)
客観的に保育を見る目を養う
見ること、話し合うことで学ぶ
→ 保育者の資質向上
- 審査、研究 85%の一致度が基準

保育の質の「見える化」

20

- 評価ツールを用いることの意味＝人にもわかるようにする
- ＝自分の実践を他者に伝える手立てとする
- 内向きの「自己評価」だけでは外部に説明できない
- 点数化はわかりやすい
目安になる
- 点数の背景にある考え方を理解→説明



危険

保育環境評価スケールの特徴

21

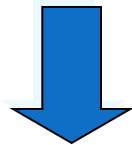
- 項目の確認



私たちの保育の位置



次への課題



より客観的な保育実践のために

22

- 客観的な評価を行なうための

チームワーク



- スーパーバイズ体制

